

# 徳地森の子くらぶ③ ～みんなで冬を楽しもう～

〈令和3年2月6日（土）～7日（日）〉

## 【目的】

自然体験活動を通して自然に親しむ態度や豊かな情操を育むとともに、集団での宿泊体験を通して自立心や望ましい生活習慣を身に付ける素地を養う。また、本事業を実施し、参加者とその保護者の自然体験についての興味や関心が高まることで、体験活動の普及を推進する。

【参加者】23名（男子12名、女子11名）、法人ボランティア4名

## 【プログラムの内容】

### 1日目

- 11:00 はじまりの会
- 11:30 みんなで仲良くなろう
- 13:00 かくれんぼ探し
- 14:00 冬の森を探検
- 18:30 火を見つめよう
- 20:00 入浴
- 21:00 就寝

### 2日目

- 7:10 ラジオ体操をしよう
- 9:30 ホットドックを作ろう
- 13:30 さよならの会
- 13:45 解散

## 「はじまりの会」



多くの参加者は、知り合いもいない中、初めてのキャンプで戸惑いも多く、会が始まる前は、緊張している様子だった。みんなで仲良くなる時間では、学生ボランティアと一緒に色々なゲームをした。子供たちは、徐々に緊張がほぐれて笑顔が出てきた。

## 「かくれんぼ探し」



かくれんぼ探しは、自然の中に同化する人工物を隠して、班で見つけていく活動である。自然を意識的に観察できるようにするための観察力を養うことを目的とした。活動を通して、「ゆっくり、何度も、多角的な視点で観察する」ことが大切であることに気が付いていた。

## 「冬の森を探検」



冬の森を探検では、班で地図を頼りに班で協力してミッションをクリアしながら散策しました。かくれんぼ探しで、気付いたことを活かして、興味深く樹木や草花を観察していました。また、ふりかえりでは、「椿と山茶花の違いが見てわかった」等の感想があり、冬の自然を知ることができている様子でした。

## 「火を見つめよう」



火を見つめようの時間では、火の神と巫女（ボランティア）に登場してもらい、中央の燭台に点火した。その後、班の代表から火を分け合い、一人一人のろうそくに灯された。その温かい火を見つめながら、落ちついた雰囲気の中で、日中のふりかえりを行った。交流タイムでは、協力するゲームを通して、結束力を高めた。

## 「ホットドックを作ろう」



ホットドック作りは、準備から片づけまで怪我なく班のみんなで協力することができた。ホットドックは多少焦げた部分もあったが、「自分たちで作ったから、おいしいね」と笑顔で食べていた。片づけでは隅々まで床を掃いたり、机等を運んだりと自発的に最後まで片づけをすることができた。

### 【参加者の声】

「たくさんの人と友達になれた」「自然を使ったゲームが楽しかった」「日ごろできない活動ができた」「かくれんぼ探しで見つけるのが楽しかった」等の感想があった。

### 【成果】

アンケートの結果では95%が満足・やや満足と回答があった。楽しみながら、五感を使って自然を意識的に感じることやしおりを自分たちで確認し、自発的に時間を守ったり、行動したりすることができていた。

### 【課題】

冬の森探検のスタート地点の地図が難しかった。スタートまでに時間がかかり、班の協力が必要であるミッションを全部クリアする時間が短くなった。そのため地図を改善し、班活動の時間を十分に取れるようにしたい。